Odemira

について
オデミーラ
この美しい名称の由来は川を意味するアラビア語のWadとEmirで、それがポルトガル語のオデミーラ（Odemira）になったと言われています。

この町は初代ポルトガル国王のアフォンソ・エンリケス（Afonso Henriques）によってムーア人の手から奪還されたものの、アフォンソ3世（D. Afonso III）治世下で住民が永続的に住み着くようになる1257年までこの町に憲章が授与されることはありませんでした。
オデミーラには、真に重要な歴史的遺産は保存されていません。例えば、かつて町の高台にそびえていた城（castelo）は今はなく、そこに通じるカステロ通り（Rua do Castelo）という名称すら残っていません。

この通りは、この町で生まれた飛行士を称えて、サルメント・デ・ベイレス通り（Rua Sarmento de Beires）と改名されました。この飛行士は1924年にBréguetの小型飛行機でマカオに向けてヴィラ・ノヴァ・デ・ミルフォンテス（Vila Nova de Milfontes）を離陸し、約115時間後、なんと16,000キロメートル以上を飛行した後にようやく休憩しました。

町の庭園の1つには、この地方のもう1人の有名な人物を記念する興味深い銅像があります。その人物とは15世紀にチェスのやり方を教える本を執筆した化学者、ダミアーノ（Damiano）です。

オデミーラの魅力は、小さな丘の頂上にあり、ミラ川（Rio Mira）を望む輝くような白壁の家々が一種の円形競技場のような形状を呈しているところにあります。川の源流はセーラ・ド・カルデイラオン（Serra do Caldeirão）に発し、この地点からヴィラ・ノヴァ・デ・ミルフォンテス（Vila Nova de Milfontes）の河口まで全長30キロメートルにわたって航行することができ、セーリング、ボート、カヌーが楽しめる極めて美しい環境が整っています。

この地方は手工芸品の保存に努めており、ここではさまざまな職人によるバスケット、家具、陶器、手織りの布などの工芸品の製作をご覧いただけます。

シネス（Sines）からアルガルヴェ（Algarve）地方のカーボ・デ・サン・ヴィンセンテ（Cabo de S. Vicente）に至るまでのポルトガル南部の海岸線全体はアレンテージョ南西・ヴィセンティーナ海岸自然公園（Parque Natural do Sudoeste Alentejano e Costa Vicentina）に指定されており、希少生物が生息し、世界で唯一、海食崖に白鳥の営巣地が見られる場所です。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com